

日本語学校の留学生が最多「稼げない国」でも日本が選ばれる理由

有料記事

浅倉拓也 2024年9月1日 18時00分

コメントプラス

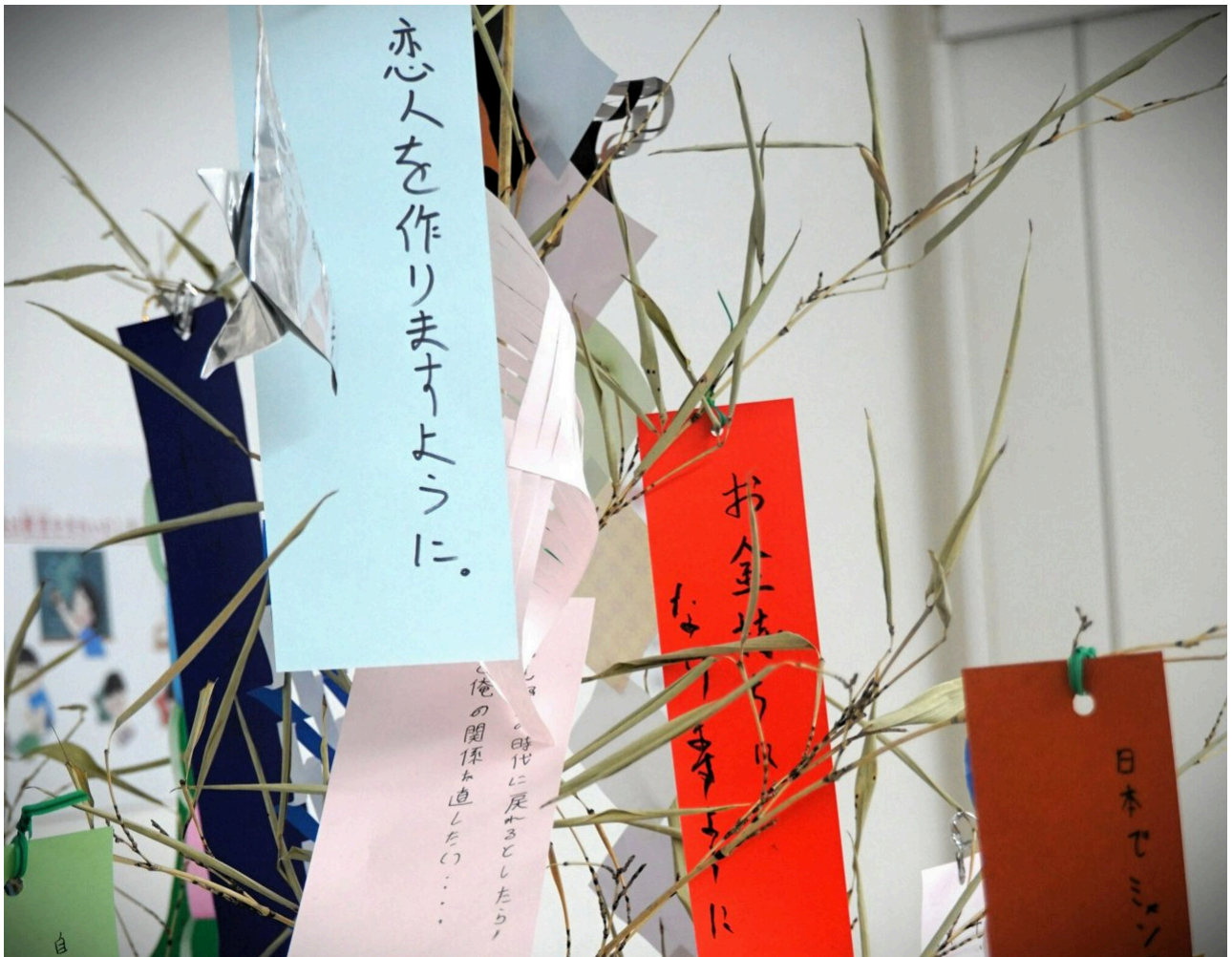
浅倉拓也さんのコメント




えびす日本語学校の入学式に、思い思いの服装で参加する留学生たち=2024年5月17日、大阪市東成区、浅倉拓也撮影

コロナ禍が落ち着き、日本に海外からの留学生が戻ってきている。特に日本語学校への留学生は過去最多になった。賃金の相対的な低下や弱い円のため「稼げない国」と言われるようになった日本だが、留学生の価値観は多様化し、大半が日本での進学や就職をめざしている。

稼ぐより日本でのんびり生活したい



留学生たちが願い事を短冊に書いた七夕の飾り=2024年7月9日、大阪市東成区、浅倉拓也撮影 

大阪市東成区の「えびす日本語学校」は今春、100人以上の新入生を迎えた。開校した2019年には2人だった留学生は、5年で約220人に増えた。


同校で最も多いのは中国からの留学生だが、賃金の高い日本でアルバイトに明け暮れるようなかつてのイメージは様変わりしている。

「お金を稼ぐより、のんびりと生活をしたい」。中国の高校を卒業して来日した張騰飛さん(19)は言う。「お金より好きなことを追求するのが人生だ」。アニメに関わることをしたいが「才能がないので」別の道を考えているという。いま住む場所に近い大阪府内の私立大への進学を希望している。

別の中国人学生は、中国内のインターナショナルスクールに高校卒業まで通っていた。留学は親の希望でもあったが、コロナ禍もあって遠い米国へ行かせるのが不安になり、日本になったという。本人は「留学は良い学歴をつくるため。中国は競争が激しく、学歴が重要ですから」。

円安のおかげで学費が安くなった



日本語学校の上級クラスの授業=2024年7月9日、大阪市東成区 

ベトナム出身の留学生も多い。ヴォ・ティ・トゥー・チャーさん(29)は、技能実習生として奈良県の工場で働いた経験がある。帰国して、日系企業で通訳として働いていたが、日本の大学でマーケティングを勉強し、キャリアアップをめざすため再来日したという。

日本語学校は学費だけで年間約70万円かかるが「円安のおかげで学費は安くなった」と言う。「お金を稼ぎたい人は円安が心配だけど、私は勉強しに来た。日本は優しくてゆっくりしていて、自分に合っている」。いずれは帰国して祖国に貢献したいという。

3年前のクーデターから政情不安が続くミャンマーからの留学生も増えている。現地では大学が閉鎖され、将来も見通せないことから海外をめざす学生が多いという。ある男子学生は「日本のヒップホップが好き。もちろん米国も好きだが、日本は特別裕福でなくても行けるから」。日本の大学に進学して、その後はオーストラリアで働きたいという。

世界でも高い日本の留学生定着率

辻本義輝校長は「日本を選んだ理由で目立つのは、平和や安全。次が優しく親切。自然豊かで美しいというイメージも。昔は日本語学校の留学生は祖国に仕送りしていた学生も多かったが、いまはアルバイトをしない学生もそこそこいる」と話す。

日本学生支援機構の調査によると、日本の大学や日本語学校などで学ぶ留学生(5月1日現在)は、23年は約27万9千人だった。19年の約31万2千人には届いていないが、コロナ禍での落ち込みから順調に回復している。このうち日本語学校など日本語教育機関の留学生は9万719人でコロナ前を上回って過去最多だった。今年度もさらに増えそうだ。

日本が働く場所として「選ばれない国」になりつつあるとも言われるが、留学生の多くは卒業後、引き続き日本で高度人材として働く道を選んでいる。

日本の移住労働者の受け入れについて、経済協力開発機構(OECD)が7月に公表した報告書も「日本で留学生の定着率は、この10年間で高まり、国際的に見ても高い」と評価する。ベトナムやネパールの留学生が増えたことも要因で、11~17年に来日した留学生のうち5年後も日本に残っている割合は、それぞれ57%と80%だった。

ただ、日本語学校の数も急増するなか、教員の確保や待遇改善が課題になり、国は日本語学校や日本語教師の質の向上を急いでいる。

19年に施行された日本語教育推進法に基づき、文科省が適正な学校を認可する手続きが今年度始まった。これまでは正式な資格がなかった日本語教師も、国家資格としての試験や登録が始まる。(浅倉拓也)



えびす日本語学校の入学式で歓迎のことばを述べる各国の在校生=2024年5月17日、大阪市東成区、浅倉拓也撮影 



えびす日本語学校の入学式で壇上に上がったネパール出身の新入生たち=2024年5月17日、大阪市東成区、浅倉拓也撮影 

この記事を書いた人

浅倉拓也
大阪社会部

+ フォロー

専門・関心分野

移民、難民、外国人労働者

コメントプラス

注目コメント試し読み >



浅倉拓也 (朝日新聞記者=移民問題) 2024年9月1日 18時37分 投稿

【視点】さまざまなかたちで「移民」の受け入れが進んでいますが、日本語を学び、日本で専門学校や大学を卒業して、日本で就職するというのは、日本社会にとって良い受け入れ方で、日本語学校の留学生が増えるのはありがたいことです。悪質な日本語学校を徹底して排除することも不可欠ですが、国の制度づくりも進み、良い方向に向かっているのは確かです。今後は、日本語教師の待遇をどう改善していくかも大きな課題になると思われます。

♡ 67



f

X

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.